付録

① 限定辞および限定を表すそれ以外の言語形式：Krámský の分類 183
A. 独立語によって限定･非限定の範疇を表現する言語 183
B. 限定･非限定の範疇の片方が独立語で、もう片方が後接語・前接語で表現される言語 184
C. 限定･非限定の双方（あるいは全部）が後接語・前接語で表現される言語 185
D. 限定･非限定の範疇が名詞そのもの或いは他の語類に内在している言語 187
E. 限定･非限定の範疇が屈折によって表現される言語 187
F. 限定･非限定の範疇が強勢や抑揚によって表現される言語 188
G. 冠詞を持たない言語 188
② 限定形名詞句に関連する代名詞・動詞とその変化表 189
《人称代名詞》 189
《動詞の活用形による主語の性・数・人称の表示》 190
《指示詞》 192
《関係代名詞》 195

付録

① 限定辞および限定を表すそれ以外の言語形式：Krámský の分類

Krámský (1972) は、諸言語の限定・非限定の表現方法を以下のようなタイプに分類して、具体例と共に挙げている。ただし、例に挙げられた言語の記述には一部不正確なものも含まれるので、他の文献も必要に応じて参考にしながら、Krámský (1972) の分類を紹介する：

A. 独立語によって限定･非限定の範疇を表現する言語

Ⅰ. 定冠詞と不定冠詞を持つ言語

1. 単数形・複数形に定冠詞がつき、不定冠詞は単数形にのみ用いられるもの
   この典型としては、英語・ドイツ語・オランダ語といったゲルマン系の言語が挙げられる。
2. 単数形にのみ定冠詞がつき、不定冠詞は単数形・複数形の両方に用いられるもの
   ポリネシア諸語のサモア語 (Samoan) 、東フツナ語 (East Futuna) 、ファカオフォ (Fakaofo) とヴァイツプの方言 (Vaitupu) などに見られる。
3. 定冠詞も不定冠詞も単数形・複数形の双方に用いられるもの
   良く見られるタイプで、ロマンス諸語、特にスペイン語がこの例として挙げられる。
4. 定冠詞も不定冠詞も単数形のみに用いられるもの
   あまり生産的ではないが、ポリネシア諸語のラロトガ語 (Rarotongan) や東ウヴェア語 (East Uvean)、ラパヌイ語 (Rapanui) に見られる。
5. 定冠詞が何種類かあるのに対し、不定冠詞が一種類のもの
   アメリカ・インディアン諸語[1]のほかにポリネシア諸語やインドネシア諸語にも見られる。

---

1) 良く発達した定冠詞の例の一つに挙げられている北米インディアン諸語のひとつポンカ語 (Ponca) の冠詞体系は以下の通り(Krámský 1972: 93)：

Ⅰ. 無生物の定冠詞
- 1. k^{c}ě 水平なもの
- 2. t^{c}ě 立っているもの、集合物
- 3. ¢a^{n} まるいもの
- 4. ǥě 散らばったもの

Ⅱ. 生物の定冠詞
- A. 主語
  - 1. ak^{c}á 静止した単数の生物
  - 2. amá 運動する単数の生物；複数
- B. 目的語
  - 1. t^{c}an 立っている単数の生物
  - 2. ¢i^{n} 動いている単数の生物
  - 3. ma 複数の生物
  - 4. ¢iňk^{c}é 単数の座った生物

6．定冠詞が一種類なのに対し、不定冠詞が何種類かあるのもの
あまり生産的ではないが、ポリネシア諸語のマルケサス語 (Marquesan)、マガレヴァ語 (Mangareva)、ファカオフォ (Fakaofo) とヴァイツプの方言 (Vaitupu) などに見られる。

Ⅱ. 定冠詞のみを持つ言語

1．一種類の定冠詞を持つもの
とても生産的なタイプで、現代語だけでなく、いくつかの古典語もこのタイプに属する。例えば、男性・女性・中性の定冠詞を持つギリシア語など。

2．何種類かの定冠詞を持つもの
このタイプは多くのインドネシア諸語やポリネシア諸語を含む。格や数などにより異なる形式を使い分ける。

Ⅲ. 不定冠詞のみを持つ言語
いくつかのイラン諸語。数字の１を表す語が不定冠詞として用いられる例がいくつか挙げられている。ダルド語群に属するパシャイー語 (Pašaī) は、不定冠詞 ēkī とともに í も不定冠詞の機能を果たしている。

Ⅳ. 定冠詞･不定冠詞・部分冠詞を持つ言語
このタイプで最も代表的なのがフランス語とイタリア語である。マルケサス語 (the language of the Isles of Marquises)[2] もこのタイプに属するとされている[3]。

B. 限定･非限定の範疇の片方が独立語で、もう片方が後接語・前接語で表現される言語
ゲルマン諸語であるデンマーク語、ノルウェー語、スウェーデン語に代表される。例えば、デ

5．¢aňk^{c}á 複数の座った生物
Ⅲ. 不定冠詞： wi^{n}

2) フランス領ポリネシアのマルケサス諸島の言語。

3) Krámský (1972: 126-127) はマルケサス語の冠詞について、R. I. Dordillon (1931). *Grammaire et dictionnaire de la langue des Îles Marquises* に基づいて、次のように述べている：
定冠詞は、単数形が te、複数形は te tau または na。
不定冠詞は、単数形が e, he, á だが、á は unités simples の前でのみ用いられる。he は í óto, í taá, í úna, í pataá, ua, ma, ma úna, io などの表現（これらの意味を Krámský は書いていない）の後で用いられる。
不定冠詞の複数は mon, na, naho である。
部分冠詞は titahi mea, ona, tona, mou, na である。
また、冠詞の変化表（単数・複数の数と、主格・属格・与格・対格・呼格・絶対格の格による変化）が挙げられているが、単数主格形が te, he となっており、結局どの冠詞のものか不明確である。
因みに柴田(1992: 176) は Krámský が冠詞と呼んだものを、名詞句の特定、不特定を標示する「特定詞」として、次の４種類を挙げている：he～e《不特定》、te《特定》、hua《既定》、a《固有》。
Krámský が定冠詞の複数形を te tau と na としているが、柴田によれば、nā は双数を、tau は複数を表す複数詞であるという。

ンマーク語では、限定が前接語の形で表される。単数形の共性[4]には -en、中性には -et、複数はどちらの性も -ene がつく。他方、不定冠詞は独立語で、共性の名詞の前には en、中性の名詞の前には et がつく。但し、属性を表す形容詞が来る場合には独立語の定冠詞がつく。単数は den, det、複数と、-e で終わる形容詞（両性・単複）は de が前置される。また不定冠詞を伴う形容詞は語尾がない。

ゲルマン諸語のほかにも、アルメニア語、ロマンス諸語のルーマニア語、カシミール語[5]、クルド語、ダルド語群のティラーヒー語、チュルク諸語のウズベク語、インドネシア諸語のロティ語(Rotinese)などなどが、このタイプの例に挙げられている。

C. 限定･非限定の双方（あるいは全部）が後接語・前接語で表現される言語

1．ひとつが後接語で、他方が前接語である場合

このグループの典型例がアラビア語である、とされている。すなわち限定を表す後接的な al[6] と、非限定を表す前接的な -n 、いわゆる nunation[7] を持つ言語である。-n は単数のみに生じる[8]が、二段変化（主格形と斜格形のみを持つ）の名詞には現れないと述べられている。

2．いずれも前接的である、或いは後接的である場合

テムネ語 (Temne) [9]が、後接的な限定辞・非限定辞を持つ言語の例のひとつに挙げられている。この言語では、限定性と非限定性の表現が名詞クラスと密接に関わっている。全てのクラスで限定・非限定を区別するわけではないが、限定形は a- で表されることが多い[10]という。

3．限定を示す前接語あるいは後接語のみを持つ場合

例えば、ヨーロッパ語では、ブルガリア語やマケドニア語が前接的限定辞[11]を持つ。

セム語ではアラム語・ヘブライ語が挙げられている。

---

4) インド・ヨーロッパ祖語の３性のうち、デンマーク語では中性名詞のみが残り、男性名詞と女性名詞はその区別を失って共性というひとつの範疇となった。デンマーク語の名詞の約75％が共性に属する（山本 1180-1181)。

5) Krámský は "Kashmiri, an Iranian language (p.142)" と記しているが、縄田教授より、カシミール語はティラーヒー語と同じくダルド語群に属するとのご指摘を頂いた。

6) この l はいくつかの子音に同化する。これについては 3.1.1.1(a) で説明した。

7) N化の意。これについては3.1.1.2 で述べた。

8) この記述はやや不正確である。双数形やいわゆる男性規則複数形には nunation は現れないが、女性規則複数の語尾には -n が現れるし、不規則複数形にも nunation が見られるものがある。これについては3.1.1.2で述べた。

9) アフリカ、シェラレオネ中部および北西部や、ギニアのフォルセカリア区に分布するニジェール・コンゴ語族の言語 (清水 1989: 1162)。

10) 清水 (1989: 1163) の表を下に挙げておく。但し、セディーユ付きの a は ə で示した。

4．非限定を示す前接語あるいは後接語のみを持つ場合

ペルシア語やタジク語、アフガン・ペルシア語、特に口語ではなく文章語がこのタイプに当たる[12]（口語ペルシア語では -e という語尾で定性が示されることがある[13]）。ただしこれらも純粋にこのタイプに属するわけではない。というのも、前接的な非限定辞の他に独立した不定冠詞（one の意味の語）もあるからである。故に、これらは部分的にAのⅢにも関わる。

具体的には、例えばペルシア語には非限定を示す3種類の方法がある[14]：

1）名詞の語末に前接的な -ī を添える。（例：ketāb-ī　ある本）

2）もとは1を表す数詞の yek を名詞の前に置く。（例：yek ketāb）

3）1）と2）との組み合わせ。（例：yek ketāb-ī）

クラス	名詞接頭辞			
	非限定		限定	
	子音の前	母音の前	子音の前	母音の前
Ⅰ	u-,(i-)	w-	ɔ-	ɔw-
Ⅰa	–	–	ɔ-	–
Ⅱ	a-	–	aŋ-	–
Ⅲ	ə-	ŋ-	əŋ-	əŋ-
Ⅳ	ɛ-	y-	ɛ-	ɛy-
Ⅴ	k-	k-	kə-	ək-
Ⅵ	r-	r-	rə-	ər-
Ⅶ	t-	t-	tə-	ət-
Ⅷ	t-	s-	tə-	əs-
Ⅸ	m-	m-	mə-	əm-
Ⅹ	n-	n-	nə-	ən-
Ⅺ	–	p-	–	əp-

11)　佐藤 (1992: 835) では後置冠詞（член）と呼ばれている。これは語派を異にするルーマニア語・アルバニア語にも見られるため、バルカンの言語圏的特徴と考える学者もいることにも言及されている。因みに、ブルガリア語の後置冠詞は佐藤によれば以下の通り (p.835)：

	単数形	複数形
男性	-ът、-ят	-те
女性	-та	-те
中性	-то	-та

12)　縄田教授より、ペルシア語の非限定の標識は、前接語というよりむしろ接尾辞ではないかとのご意見を頂いた。

13)　縄田教授より、この -e は母音の後では -he となる、とのご指摘を頂いた。

14)　これらは単数形の例。Krámský (1972: 162) は複数形も同様だとして、*yek ketāb-hā とか *yek ketāb-hā-ī のような、1を意味する yek を複数形に添えるという誤った表現を挙げている。但し -ī は複数形にも付く。

D. 限定・非限定の範疇が名詞そのもの或いは他の語類に内在している言語

この項の最初に挙げられているのは、現代ペルシア語の例である。例えば *ketāb* は a book / the book の何れの意味も持ち得るし、その複数形 *ketāb-hā* も (some) books / the books のどちらでもあり得る。しかし既にCの4でも見たように、ペルシア語には非限定を表すのに3通りの方法がある。このことから Krámský は、ペルシア語では非限定が有標的で、限定が無標的だと結論づけている。

このように、後述されるGとは異なり、限定・非限定を表す手段が欠けているわけではないが、そうした標識なしでも名詞句を限定形乃至非限定形として運用することができる言語というのが、このタイプに分類されている。アルバニア語、アゼルバイジャン語などもこのタイプとして挙げられている。

E. 限定・非限定の範疇が屈折によって表現される言語

Ⅰ. 限定・非限定の範疇が名詞の屈折によって表現される

この方法は世界の言語で頻繁に見受けられる。多くのアルタイ諸言語では、対格がある特定の限定的な対象を示し、接尾辞ゼロの基本形は非限定的な対象を表す。

他には、例えばモルドビン語にも、名詞に限定と非限定の2種類の活用がある。*ava* （女）の主格形の例を挙げると、単数の非限定形が *ava-* ϕ, 限定形が *ava-š*, 複数の非限定形が *ava-t*, 限定形が *ava-t-ne*[15] である。

Ⅱ. 限定・非限定の範疇が形容詞の屈折によって表現される

古いスラブ語では限定・非限定が形容詞の複雑な屈折によって表現される。

例えば、セルビア・クロアチア語では形容詞が今でも限定形と非限定形の2つの形式を持つ。限定形の形容詞は、男性単数主格の場合 *-ī* という語尾を取るが、非限定形は - ϕ つまり語尾ゼロである。ただ、全ての性・数・格で限定形と非限定形とが異なる形式を取るとは限らないし、限定形のみ、或いは非限定形のみしかないという形容詞もある。

古英語やその他古ゲルマン諸語では、形容詞に強変化と弱変化[16]の2種類があり、強変化が非限定形、弱変化が限定形に対応していた。

---

15) ただし原文では、ava-t-nd と誤記されている。参考までに、松村 (1992: 486) に挙げられた кудо（家）の例を引用しておく：

主格形	単数・非限定形	кудо
	限定形	кудось
	複数・非限定形	кудот
	限定形	кудоте

16) n- 語幹による屈折を行う形容詞の形を弱変化というが、これはドイツ語の schwach「あまり（変化）しない」或いは英語の weak（これも schwach の訳語）の単なる直訳である（秦 p.1628）。

Ⅲ. 限定･非限定の範疇が動詞の形によって表現される

ハンガリー語は、主体活用・中間活用・対象活用の３種の動詞活用形を有する。

主体活用（ある種の語では代わりに中間活用が用いられる）は：

1）動詞が自動詞のとき、

2）特定の目的語が意図されていないとき、

3）目的語が現れてはいるが、明白に限定された対象を示しているのではないとき、

4）直接目的語が疑問代名詞や不定代名詞のように、特定の対象を示さぬ代名詞のとき、

のように、自動詞や、他動詞で目的語が曖昧にしか定められていないとき[17]に用いられる。

他方、対象活用は：

1）直接目的語が特定されてはいないが、理解されるとき、

2）直接目的語が明白に限定されたものとして示されるとき、

3）動詞の直接目的語が関係代名詞や hogy（英語の that に相当）に導かれる文であるとき、

のように、目的語の存在が、実際に文の表層に現れるかどうかは別にして、きちんと示される場合に用いられる。

F. 限定･非限定の範疇が強勢や抑揚によって表現される言語

オセット語 (Ossetic) では例えば、第二音節にあった強勢が第一音節に移ることで、限定が表現される：bœlás（木 indef）に対してbœlas（木 def）など。形容詞が付加されたときには、強勢が、非限定を表すときには一音節、限定を表すときには二音節後退する。この現象はディゴル語 (Digor language)[18]にかつて存在した定冠詞 i に歴史的につながるものという。

G. 冠詞を持たない言語[19]

印欧語でも、一部のスラブ諸語や殆どのインド諸言語では名詞句の限定・非限定の形式の区別が失われている。しかし、スラブ諸語は語順が比較的自由であることから、語順により限定・非限定を区別する表現が可能である[20]。その他の言語でも、例えば指示代名詞を用いて定性を示す方法は広く用いられている。

---

17) もうひとつ、5）直接目的語が人称代名詞あるいは一人称・二人称（単複両方）の mindnyáj- のとき、という例も挙げられているが、正確には、目的語が人称代名詞の場合には、1人称・2人称は対象活用を、3人称では主体活用をする（早稲田・徳永 p.363）

18) ここではディゴル語と呼ばれているが、縄田教授より、イラン語派のオセット語の下位分類として西のディゴル方言、東のイロン方言があるので、ディゴル「方言」と呼ぶのがより適切と考えられる、とのご指摘を頂いた。

19) Krámský は日本語には言及していない。

20) ロシア語の例として、Bondarko, A.V, (1991). *Functional grammar.* John Benjamins, Amsterdam. の浜之上 (1998: 535) からの孫引きだが、次の２文を挙げておく：

Съезжались гости. （集まった-客 pl nom） 何人かの客 (indef) が集まった。

Гости съезжались. （客 pl nom-集まった） 何人かの客 (def) が集まった。

② 限定形名詞句に関連する代名詞・動詞とその変化表

《人称代名詞》

アラビア語の人称代名詞は、独立代名詞 (aḍ-ḍamāʾir al-munfaṣilah) と接続代名詞 (aḍ-ḍamāʾir al-muttaṣilah) との２種類に大別される。前者は主格の位置、後者は斜格の位置に現れる。また名前通り前者は独立した語として、後者は他の語に対し前接的に用いられる：

表 1) 正則アラビア語の独立代名詞

		単数	双数	複数
三人称	男性	huwa	humā	hum
	女性	hiya		hunna
二人称	男性	ʾanta	ʾantumā	ʾantum
	女性	ʾanti		ʾantunna
一人称	(共通)	ʾanā	naḥnu	

表 2) 正則アラビア語の接続代名詞

		単数	双数	複数
三人称	男性	-hu	-humā	-hum
	女性	-hā		-hunna
二人称	男性	-ka	-kumā	-kum
	女性	-ki		-kunna
一人称	(共通)	-nī/-ī[21]	-nā	

表 3) エジプト方言の独立代名詞

		単数	複数
三人称	男性	huwwa	humma
	女性	hiyya	
二人称	男性	inta	intu
	女性	inti	
一人称	(共通)	ana	iḥna

表 4) エジプト方言の接続代名詞

		単数	複数
三人称	男性	-u,-h[22]	-hum
	女性	-ha	
二人称	男性	-ak	-ku
	女性	-ik	
一人称	(共通)	-ni/-i	-na

表 5) モロッコ方言の独立代名詞

		単数	複数
三人称	男性	huwa	huma
	女性	hiya	
二人称	男性	nta	ntuma
	女性	nti	
一人称	(共通)	ana	ḥna

表 6) モロッコ方言の接続代名詞

		単数	複数
三人称	男性	-u,-(ə)h[23]	-hom
	女性	-ha	
二人称	(共通)	-(ə)k	-kom
一人称	(共通)	-ni/ -i, -ya[24]	-na

---

21) 一人称単数のみ、属格では -ī、対格ではそれに n がついて -nī となり、異なる形式を取る。

22) 子音の後では -u, 母音の後では -h の形を取る。

23) 子音の後では -u, 母音の後では -h の形をとる。ただし対格で用いられる際、語尾が -w, -y をとる動詞の後及び -in（能動分詞の複数形語尾）の後では -əh となる。

24) 正則アラビア語と同じ格による区別に加え、さらに属格は母音の後では -ya, 子音の後では -i となる。

正則アラビア語では代名詞に双数の範疇が残っているが、現代の諸方言では双数と複数の区別は失われている。

なお Holes (1995: 146) は、二人称と三人称との複数形における性の区別について、都市部の方言（カイロ、ダマスカス、エルサレムなど）ではそうした区別が、動詞の活用形と同様（次項で触れる）消滅しているが、ベドウィン型の方言（中央サウジ・アラビアやオマーンの殆ど）は変化の速度が遅く、この性の区別が未だに生き残っている[25]と述べ、都市型の例としてダマスカス方言を、ベドウィン型の例として中央サウジ・アラビアの al-Ha'il の方言を挙げている：前者では、二人称複数の独立代名詞が 'intu, 接続代名詞が -kon で男女共通であるが、後者では、男性形が intam, -kam で、女性形が intin, -kin と区別される。同様に、三人称複数形も、ダマスカス方言では hinne, -hon であるが、ハイル方言では男性形が ham, -ham と女性形が hin, -hin で区別されている。

《動詞の活用形による主語の性・数・人称の表示》

アラビア語の伝統文法に於いては、動詞の活用語尾の一部を明示的な代名詞として扱っている。例えば、ḍarab-tu（私は打った）の -tu は１人称単数の主格を表す代名詞として扱われる。他方、ḍaraba-t（彼女は打った）の語尾の -t は女性を表すだけの標識で、その後に hiya (3f sg nom) という代名詞が「隠れた (mustatir)」状態にあると説明される。一見一貫性がないように見えるこのような解釈にも合理的な面はあるのだが[26]、本論文ではより首尾一貫した説明のために、動詞の活用形でその主語の人称や性・数が知られるが、明示的な代名詞は用いられていない場合を、一律に「隠れた代名詞」として扱っている。

以下に、まず正則アラビア語の完了形の活用表を挙げる[27]：

表 7) 正則アラビア語の動詞の完了形

		単数	双数	複数
三人称	男性	katab-a-ϕ	katab -ā	katab- ū
	女性	katab-a-t	katab-a-tā	katab- na
二人称	男性	katab -ta	katab -tumā	katab-tum
	女性	katab -ti		katab-tunna
一人称	(共通)	katab -tu		katab- nā

前項で代名詞について述べたことと同様、口語においては双数の範疇が消え、また複数形でも性の区別がなくなることが多い。例として、エジプト方言とモロッコ方言との完了形の活用表を以下に挙げておく：

---

25) Isaksson (1991: 123-125) によれば、ヒジャーズやネジドの方言では、二人称・三人称の複数で性の区別が曖昧になりつつある。

26) この問題に関しては、拙稿 (1997b) で不十分ながら触れている。

27) 以下、規則動詞（３語根が異なる強い子音で構成される動詞）を例に活用を示す。例えば語根に半子音の含まれる動詞などのようないわゆる不規則動詞では、活用形の少々異なってくる場合がある。なお、語根は表で薄地にして示してある。

表 8) エジプト方言の動詞の完了形

		単数	複数
三人称	男性	katab-ϕ	katab-u
	女性	katab-it	
二人称	男性	katab-t	katab-tu
	女性	katab-ti	
一人称	(共通)	katab-t	katab-na

表 9) モロッコ方言の完了形

		単数	複数
三人称	男性	ktəb-ϕ	kətb-u
	女性	kətb-ət	
二人称	(共通)	ktəb-ti	ktəb-tiw
一人称	(共通)	ktəb-t	ktəb-na

次に、アラビア語の未完了形の活用表を挙げていく。正則アラビア語には未完了形に直説法・接続法・希求法の 3 種類の法がある。以下に、その 3 種類の活用表を挙げる：

表 10) 正則アラビア語の動詞の未完了形直説法

		単数	双数	複数
三人称	男性	ya-ktub -u	ya-ktub -āni	ya- ktub -ūna
	女性	ta- ktub -u	ta- ktub -āni	ta- ktub -na
二人称	男性	ta- ktub -u	ta- ktub -āni	ta- ktub -ūna
	女性	ta- ktub -īna		ta- ktub -na
一人称	(共通)	ʾa- ktub -u		na- ktub -u

表 11) 正則アラビア語の動詞の未完了形接続法

		単数	双数	複数
三人称	男性	ya-ktub -a	ya-ktub -ā	ya- ktub -ū
	女性	ta- ktub -a	ta- ktub -ā	ta- ktub -na
二人称	男性	ta- ktub -a	ta- ktub -ā	ta- ktub -ū
	女性	ta- ktub -ī		ta- ktub -na
一人称	(共通)	ʾa- ktub -a		na- ktub -a

表 12) 正則アラビア語の動詞の未完了形希求法

		単数	双数	複数
三人称	男性	ya-ktub -ϕ	ya-ktub -ā	ya- ktub -ū
	女性	ta- ktub -ϕ	ta- ktub -ā	ta- ktub -na
二人称	男性	ta- ktub -ϕ	ta- ktub -ā	ta- ktub -ū
	女性	ta- ktub -ī		ta- ktub -na
一人称	(共通)	ʾa- ktub -ϕ		na- ktub -ϕ

接続法と希求法の形式は、希求法の活用表で網の掛けられた部分、すなわち三人称単数と二人称男性単

数と一人称以外では同形となっている。

口語では、上記のような法の区別は消える。また完了形の場合と同様、双数という範疇も失われ、複数形における性の区別もなされなくなっていることが多い。再び、エジプト方言とモロッコ方言の例：

表 13) エジプト方言の動詞の未完了形

		単数	複数
三人称	男性	yi- ktib	yi- ktib-u
	女性	ti- ktib	
二人称	男性	ti- ktib	ti- ktib-u
	女性	ti- ktib-i	
一人称	(共通)	'a- ktib	ni-ktib

表 14) モロッコ方言の未完了形

		単数	複数
三人称	男性	y- ktəb	y-kətb -u
	女性	tə- ktəb	
二人称	(共通)	tə- ktəb	t- kətb -u
一人称	(共通)	nə- ktəb	n- kətb -u

《指示詞》

正則アラビア語の指示詞は性・数および双数においては格によって以下のような形式をとる：

表 15) 正則アラビア語の指示詞

		単数	双数	複数
男性	主格	ðā	ðāni	'ūlā'i
	斜格		ðayni	
女性	主格	ðī, tī	tāni	
	斜格	tā	tayni	

ただし複数形の 'ūlā'i は、聖典クルアーンの下った Ḥijāz 地方での形で、Tamīm 族の方言では語末の ' が消えた ūlā という形である (Ibn Hišām, p.140)。

上記の形に形態素を付加して、話し手からの物理的な距離を示す近称・中称・遠称の各指示詞が形成される。その形態素とは、注意喚起の小辞 (ḥarf tanbīh) の hā、語りかけの小辞 (ḥarf xiṭāb) の ka、および li の 3 種類である。

ただし、伴 (1958) は ka を語りかけの小辞ではなく、人称代名詞と見なしている。彼によれば、まずアラビア語に主格・対格・属格の他、位格 (casus locativus) を認める余地があり[28]、その痕跡は qabl-u（前に）、taḥt-u（下に）などに見られるとしている (p.142)。そして、アラビア語の指示詞に見られる-ka は、まさに「［あなたのところにある］それ」という位格の意味で添えられたと解釈できるとして、「本来は勿論話し手の性、数に応じて相当する接尾語を使い分けた」と、その根拠として次の聖句[29]を挙げている：

28) 例えば、アッカド語にも -um（後に mimation すなわち語尾に付く -m が失われて -u）という形態素があり、名詞の語末について副詞を派生させる (Marcus 1978: 90)。これもアラビア語の -u と同じく、主格語尾と同形。

29) ユースフの物語（創世記37-46章のヨセフの物語に対応する）の一場面で、このことばを発したのは、ユースフ少年が世話になっていたエジプト人高官の妻。彼女がユースフを誘惑したことが町の婦人たちの噂となってしまった

12: 32 qālat fa- ***ðālikunna*** -llaðī lumtunna -nī fī -hi
言う pf 3f sg そして- それm sg -関係詞 m sg 非難する pf 3f sg -1sg acc ～について-3m sg obl
彼女は言った。それこそあなた方（女性複数）が私を非難するもととなった当人ですよ。

このðā-li-kunnaの-kunnaが、２人称女性複数の接続代名詞の形と同じである。

liについて言えば、単数形の指示詞、および注意喚起のhāの付かない指示詞とともに用いられる。ただし、Tamīm族の方言では'ulā-*li*-kaと複数形にもliの用いられることがある。

以下、El-Dahadah (1993: 32-33) に従って、正則アラビア語の近称・中称・遠称の各指示詞を示す：

表 16）正則アラビア語の指示詞（近称）

		単数	双数	複数
男性	主格	hāðā	hāðāni	hā'ulā'i
	斜格		hāðayni	
女性	主格	hāðihi	hātāni	
	斜格		hātayni	

表 17）正則アラビア語の指示詞（中称）

		単数	双数	複数
男性	主格	ðāka	ðānika	'ulā'ika
	斜格		ðaynika	
女性	主格	tīka	tānika	
	斜格		taynika	

表 18）正則アラビア語の指示詞（遠称）

		単数	双数	複数
男性	主格	ðālika	ðānnika	'ulālika
	斜格		ðaynnika	
女性	主格	tilka	tānnika	
	斜格		taynnika	

方言においては性・数の区別が緩やかになり、例えばエジプト方言では、男性単数形 dah, 女性単数形 dih, 複数形 dōl の３種だけとなる。モロッコ方言でも、近称が hada (m sg), hadi (f sg), hadu (pl), 遠称が hadak (m sg), hadik (f sg), haduk (pl) となっており、やはり双数形という範疇が無くなり、複数形では性の区別もされていない。

ため、彼女は自宅で宴を催し、そこに町の婦人たちを招いて弁明しようとした。

指示詞が普通名詞に対して指示形容詞として用いられるときは、形容される普通名詞には限定辞が付く。但し、2.1.1.4で述べたように、ブハラ方言においては限定辞の使用が限られており、指示詞は限定辞を伴わない名詞に直接添えられる (Fischer 1959: 81)：

had dinya　　cf. hāðihi -*d*- dunyā （正則アラビア語）
この 世界　　この f sg -defp- 世界
「この世」　　「この世」

また、ブハラ方言に見られるイラン諸語からの影響として Fischer (1959: 81) は、ペルシア語の指示詞が屢々、"ham-īn" (very this) や "ham-ān" (very that)などの形[30]で用いられると述べている：

min *hamān* ki[31] ɣadīt, fuq ɣáraba irq,
～から それ ～とき 行くpf 2m sg ～の上 木 上るimpr msg

gáwhar úxd -u ... (Винников1969: 266, l.25)
真珠 取るimpr msg -3m sg obl
あなたは、そこから行ったら、その木に登りなさい。そして真珠を取りなさい。・・・

その一方で、"hada" (< hāðā これ／この) という指示詞も "ham" に劣らず用いられる。これは "had" 或いは "hat" のように語末の "-a" が脱落した形で現れる。"-d" が無声化する例も珍しくない[32]。さらに Fischer (1959: 82) は "hat" の語末の t が次に来る名詞の語頭子音に同化する例も珍しくないと言う：

haššuɣul < hat šuɣul
この 仕事 「この仕事」

また "ham" と "hat" とが結合し "hamat" という指示詞が作られる（ham+hat. > ham+at > hamat）：

hamat zaɣīr
この 小さいm sg 「この少年」

これ以外にも "ham" は、以下のように他の指示詞やその他の形態素と結合して、新たな指示詞を形成することができる：

hamdūk, hamdok < ham-ðāka

---

30) īn（これ）、ān（あれ）という指示詞に、ham（～もまた）を表す語の付いた形。ペルシア語でも、hamīm（まさしくこの）のように用いられる。（縄田鉄男教授よりご教示いただいた）

31) ki は、従属文を導く接続詞で、英語の that に相当する使われ方をすることが多いが、直接話法の文を導入する際にも用いられる。ペルシア語の كه /ke/ に由来するものと思われる。

32) 指示詞以外でも不定冠詞として用いられる "fat" の語末の "-t" は "-d" が無声化した例：fat < fad < fard.

hama < ham-hā
hamān < ham-hā-hunā （ここ）
hamūk < ham-hāk （そこ）など。

《関係代名詞》

アラビア語の関係詞は、個別 (xāṣṣ) 関係詞と共通 (muštarak) 関係詞の２種類に分けられる。個別関係詞は、性・数、さらに双数形においては格によって、以下のように変化する：

表 19）正則アラビア語の関係詞

		単数	双数	複数
男性	主格	allaðī	allaðāni	allaðīna
	斜格		allaðayni	
女性	主格	allatī	allatāni	allātī, allā'ī
	斜格		allatayni	allawātī,

共通関係詞とは、全ての性・数に対して一定の形を保つ。ただし、共通関係詞そのものは男性単数扱いとなる。共通関係詞としては以下のものが挙げられる：人間[33]に対して用いられる man（～するところの人）、それ以外のもの[34]に対して用いられる mā（～するところのもの）、及び Ṭayyi' 族のðū[35]。

33）理性のあるもの ('āqil) と呼ばれる。

34）理性のないもの (ɣayr 'āqil) と呼ばれる。

35）Ibn Hišām, p.145.

また、Ibn 'Aqīl (pp. 81-82) は、一般に ðū には性・数による変化はないが、時に以下のような変化形が用いられることのあること：

		単数	双数	複数
男性	主格	ðū	ðawā	ðawū
	斜格		ðaway	ðawī
女性	主格	ðātu	ðawātā	ðawātu
	斜格		ðawātay	

それから ðū は一般には格変化をしないが、ðā (acc), ðī (gen) のように変化させる場合もあり、ðātu (f sg) は正しくは ðawātu (f pl) と同じく格変化しないものの、ðātu (f sg nom), ðāti (f sg obl) と変化させる場合もあることを述べている。ðawātu (f pl) も、女性規則複数のように、つまり ðawātu (nom), ðawāti (obl) と変化する、という説を唱える文法家もある。

参考文献

'Abduh, D. (1973). *Abḥāθ fi-l-luɣat-i-l-'Arabiyyah.* Maktabah Lubnān, Beirut.

Aquilina, J. (1965). *Teach yourself Maltese.* Teach yourself books. Hodder and Stoughton, London.

——. (1987). *Maltese-English dictionary.* vol.1, A - L. Midsea Books Ltd. Valletta.

——. (1990). *Maltese-English dictionary.* vol.2, M - Z and Addenda. Midsea Books Ltd. Valletta.

Aziz, Yowell Y. (1988). Theme-rheme organization and paragraph structure in standard Arabic. *Word, 39:* 117-128.

伴康哉 (1958).「セム語人称接尾辞に関する一考察」『大阪外國語大學學報』*6,* 142-153.

de Beaugrande, Robert-Alain & Dressler, Wolfgang D. (1981). *Introduction to text linguistics.* Longman, London.（池上嘉彦・三宮郁子・川村三喜男・伊藤たかね訳 1984『テクスト言語学入門』紀伊国屋書店.）

Belyayeva, D. (1997). Definiteness realization and function in Palestinian Arabic. In M. Eid & R. R. Ratcliffe (ed.) *Perspective on Arabic linguistics X: Papers from the tenth annual symposium on Arabic linguistics.* 47-67. John Benjamins Publishing Co., Amsterdam.

Borg, A. (1985). *Cypriot Arabic.* Abhandlungen für die kunde des morfenlandes, XLVII, 4. Deutsche Morgenländische Gesellschaft, Stuttgart.

Borg, A. & Azzopardi-Alexander, M. (1997). *Maltese.* Descriptive Grammars. Routledge, London & New York.

Brown, G. & Yule, G. (1983). *Discourse analysis.* Cambridge Textbooks in Linguistics. Cambridge University Press, Cambridge.

Burton-Roberts, N. (1981). Review: *Definiteness and indefiniteness: A study in reference and grammaticality prediction.* By John A. Hawkins. *Language, 57,* 191-196.

Chafe, W. L. (1976). Giveness, contrastiveness, definiteness, subjects, topics, and point of view. In C.N.Li (ed.) *Subject and topic,* 25-55. Academic Press, Inc., New York.

Chesterman, A. (1991). *On definiteness: A study with special reference to English and Finnish.* Cambridge studies in linguistics, 56. Cambridge University Press, Cambridge (UK).

El-Dahadah, A. (1993). *A dictionary of Arabic grammatical nomenclature: Arabic-English.* Librairie du Liban Publishers, Beirut.

Dik, S. C. (1981). *Functional grammar,* 3rd revised edition.（初版は1978). Publications in language science, 7. Foris Publications Holland, Dordrecht.

Eid, M. & Ratcliffe, R. R. (ed.) (1997). *Perspective on Arabic linguistics X: Papers from the tenth annual symposium on Arabic linguistics.* Amsterdam studies in the theory and history of linguistic science, Series IV, Current issues in liguistic theory, vol. 153. John Benjamins

Publishing Co., Amsterdam.

Finegan, E. & Besnier, N. (1989). *Language: Its structure and use.* Harcourt Brace Jovanovich, Inc., SanDiego.

Fischer, W. (1959). *Die Demonstrativen Bildungen der Neuarabischen Dialekte.* Mouton & Co., The Hague. ブハラ方言については、Vinnikov, I. N. (1949). Materialy po jazyku i fol'kloru Buxarskix arabov. in *Sovetskoe Vostokovedenie VI,* 120-145. が種本。

Fischer, W. & Jastrow, O. (1980). *Handbuch der Arabischen Dialekte.* Otto Harrassowitz, Wiesbaden.

Givón, T. (ed.) (1979). *Discourse and syntax.* Syntax and semantics vol. 12. Academic Press, New York.

——. (1984). Universals of discourse structure and second language acquisition. In W. E. Rutherford (ed.) *Language universals and second language acquisition.* John Benjamins Publishing Company, Amsterdam / Philadelphia.

-----. (1990). *Syntax: A functional-typological introduction. vol. 2.* John Benjamins Publishing Company, Amsterdam/Philadelphia.

Grimes, J. E. (1975). *The Thread of discourse.* Mouton, The Hague.

Gundel, J. K.., Hedberg, N. & Zacharski, R. (1993). Cognitive status and the form of referring expressions in discourse. *Language, 69,* 274-307.

al-Ḥamādī, Y., aš-Šunāwī, M. M.& ʿAṭā, M. Š. (1993). *Al-qawāʿid-u-l-ʾasāsiyyah fi-n-naḥw wa-ṣ-ṣarf li-talāmīðī-l-marḥalat-i-θ-θānawiyyah wa-mā fī mustawā-hā.* Ministry of Education, Egypt.

浜之上　幸 (1998).「現代朝鮮語の定／不定について」.『平成９年度COE形成基礎研究費研究成果報告(2)（課題番号 08CE1001）「先端的言語理論の構築とその多角的な実証 (2-B) －ヒトの言語の組み立て演算する能力を語彙の意味概念から探る－」』533-556.（研究代表者：井上和子）

Harrell, R. S. (1962). *A short reference grammar of Moroccan Arabic.* Georgetown University Press, Washington D.C.

Harrell, R. S. with Abu-Talib, M. & Caroll, W. S. (1965). *A Basic Course in Moroccan Arabic.* Georgetown University Press, Washington D.C.

Harrell, R. S. (ed.) (1966). *A Dictionary of Moroccan Arabic: Moroccan-English.* Georgetown University Press, Washington D.C.

Ḥasan, ʿA. (1995). *An-naḥwu-l-wāfī.* 4 vols. Dār al-Maʿārif, Cairo. 12th edition.（初版は1960).

Ḥasānīn, F. ʿA. (1990). *Adāt-u-t-taʿrīf fi-n-naḥwi-l-ʿArabī: dalālah, wa-stiʿmālāt.* Maṭbaʿah al-ʾAmānah, Cairo.

秦　宏一 (1988).「ゲルマン語派」,『言語学大辞典』第１巻（亀井孝・河野六郎・千野栄一編著）所収、1625-1630. 三省堂.

服部四郎 (1950).「附属語と附属形式」『言語研究』*15,* 1-26.

Hawkins, J.A. (1978). *Definiteness and indefiniteness: A study in reference and grammaticality*

prediction. Croom Helm Linguistics Series. Humanities Press, Atlantic Highlands, N.J.

Brother Henry F. S. C. (1980). *Grammatika Maltija.* It-tieni ktieb, Is-6 edizzioni. De la Salle Brothers Publications, [Cottonera] Malta.

Hinds, John (1984). Topic maintenance in Japanese narratives and Japanese conversational interaction. *Discourse Processes, 7,* 465-482.

Holes, C. (1995). *Modern Arabic: Structures, Functions and Varieties.* Longman, London & New York.

Ibn ʿAqīl (died in 769 h.) *Šarḥ Ibn ʿAqīl ʿalā ʾalfiyyah Ibn Mālik.* Revised by Al-Ḥumṣī & Qāsim (1990). Dār Jarrūs, Tripoli (Lebanon).

Ibn Hišām (died in 761 h.) *Šarḥ šuðūr-i-ð-ðahab fī maʿrifah kalāmi-l-ʿArab.* (ʿAbd al-Ḥamīd ed. *Muntaha-l-ʾarab bi-taḥqīq Šarḥ šuðūri-ð-ðahab* も収録) Al-Maktabah al-Miṣriyyah, Cairo.

Ibn Sarrāj (died in 316 h.) *Al-ʾuṣūl fi-n-naḥw.* 3vols. 3rd edition revised by ʿAbd al-Ḥusayn al-Fatlī (1988). Muʾassasah ar-Risālah, Beirut.

Ibn Yaʿīš (died in 643 h.) *Šarḥu-l-mufaṣṣal.* 10vols. ʿĀlam al-Kutub, Beirut.

池田 修 (1968).「9 世紀以前のアラビア語の研究」『オリエント』 *11, 3-4,* 121-160.

―――. (1969).「10世紀以降のアラビア語研究の歴史」『大阪外國語大學學報』 *22,* 35-49.

Isaksson, B. (1991). The personal markers in the modern Arabic dialects of the Arabian Peninsula. *Orientalia Suecana, XL,* 117-145.

al-Johani, M. H. (1982). *English and Arabic articles: A cotrastive analysis in definiteness and indefiniteness.* Doctoral dissertation, Indiana University.

亀井 孝・河野 六郎・千野 栄一 編著(1988).『言語学大辞典』第 1 巻　世界言語編　上、　三省堂.

――. (1989).『言語学大辞典』第 2 巻　世界言語編　中、　三省堂.

――. (1992 a).『言語学大辞典』第 3 巻　世界言語編　下-1、　三省堂.

――. (1992 b).『言語学大辞典』第 4 巻　世界言語編　下-2、　三省堂.

――. (1996).『言語学大辞典』第 6 巻　術語編、三省堂.

Khan, G. (1984). Object markers and agreement pronouns in Semitic languages. *Bulletin of the School of Oriental and African Studies, XLVII,* 468-500.

――. (1988). *Studies in Semitic syntax.* Oxford University Press, New York.

Krámský, J. (1972). *The article and the concept of definiteness in language.* Janua Linguarum, 125. Mouton, The Hague.

Kuno, S. (1970). Some property of non-referential noun phrases. In R. Jacobson & S. Kawamoto (eds.) *Studies in general and Oriental linguistics presented to Shirô Hattori on the occasion of his sixtieth birthday.* TEC Company, Ltd., Tokyo.

――. (1976). Subject, theme, and the speaker's empathy --A reexamination of relativization phenomena. In Li, C.N. (ed.) *Subject and topic,* 417-444. Academic Press, Inc., New York.

Kuno, S. & Kaburaki, E. (1977). Empathy and syntax. *Linguistics Inquiry, 8,* 627-672.

久野 暲(1978). 『談話の文法』 大修館書店.

Lane, E. W. (1984). *Arabic-English lexicon.* 2 vols. The Islamic Texts Society, Cambridge. (初版は Williams and Norgate, London & Edinburgh より、1863年に Part 1 ا – ث. 以下1893年の Part 8 ن – ي まで)

Levinson, S. C. (1983). *Pragmatics.* Cambridge Textbooks in Linguistics. Cambridge University Press, Cambridge.

Lewis, G. L. (1953). *Teach yourself Turkish.* Teach yourself books. The English Universities Press Ltd., London.

Li, C. N. ed. (1976). *Subject and topic.* Academic Press, Inc., New York.

松村 一登 (1992). 「モルドビン諸語」, 『言語学大辞典』 第 4 巻 (亀井孝・河野六郎・千野栄一編著) 所収、485-489. 三省堂.

Marcus, D. (1978). *A manual of Akkadian.* University Press of America, Lanham & London.

Maynard, S. K. (1980). *Discourse functions of the Japanese theme marker -Wa.* Doctoral dissertation, Northwestern University.

メイナード、泉子・K (1997). 『談話分析の可能性 –理論・方法・日本語の表現性』 くろしお出版.

Moscati, S. (1980). *An introduction to the comparative grammar of the Semitic languages: Phonology and morphology.* Otto Harrassowitz, Wiesbaden. 初版は1964.

中野 暁雄 (1988). 「アラビア語諸方言」, 『言語学大辞典』 第 1 巻 (亀井孝・河野六郎・千野栄一編著) 所収、472-483. 三省堂.

Nekrouf, Y. (1952). *Méthode Active d'Arabe Dialectal 1er livre.* Nejma, Rabat.

野田 尚史 (1996). 『「は」と「が」』 くろしお出版.

信森 廣光 (編) (1992). 『マルタ語基礎1500語』 大学書林.

Rutherford, W. E. (ed.) *Language universals and second language acquisition.* Typological studies in language, vol. 5. John Benjamins Publishing Company, Amsterdam / Philadelphia.

榮谷 温子 (1996). 「アラビア語の定冠詞」 http://www3.aa.tufs.ac.jp/~P_aflang/TEXTS/june96/harukos.txt

———. (1997). 「活用語尾か代名詞か —アラビア語の接続代名詞をめぐって—」 『言語・地域文化研究』 *3,* 103-119.

———. (1998 a). 「アラビア語の限定名詞句の用法—主に童話テキストの書き出し部分について—」 『日本中東学会年報』 *13,* 257-285.

———. (1998 b). 「コーランの物語テキストにおける限定名詞句の用法」 日本言語学会第116回大会口頭発表.

佐藤 純一 (1992). 「ブルガリア語」, 『言語学大辞典』 第 3 巻 (亀井孝・河野六郎・千野栄一編著) 所収、833-840. 三省堂.

柴田 紀男 (1992). 「マルケサス語」, 『言語学大辞典』 第 4 巻 (亀井孝・河野六郎・千野栄一編著) 所収、174-178. 三省堂.

清水 紀佳 (1989). 「テムネ語」,『言語学大辞典』第２巻（亀井孝・河野六郎・千野栄一編著）所収、1162-1165. 三省堂.

Sībawayhi (died in 180 h.) *Al-kitāb: Kitāb Sībawayhi*, 5vols.（第１巻 1977, 第２巻 1979, 第３巻 1973, 第４巻 1975, 第５巻 1977. 第１巻・第２巻は 2nd edition. その他は版の表示なし）Revised and commented by ʿAbd as-Salām Muḥammad Hārūn. Al-Hayʾah al-Miṣriyyah al-ʿĀmmah li-l-Kitāb, [Cairo].

高階 美行 (1992).「マルタ語」,『言語学大辞典』第４巻（亀井孝・河野六郎・千野栄一編著）所収、179-187. 三省堂.

田村 秀治 (1980).『詳解アラビア語−日本語辞典』㈱ユナイテッド パブリッシャーズ.

田中 望 (1981).「『コソア』をめぐる諸問題」、国立国語研究所『日本語の指示詞』日本語教育指導参考書8, 1-50. 国立国語研究所.

Tarazī, F. (1962). ʾAdāt-u-t-taʿrīf fi-l-ʿArabiyyah. *al-ʾAbḥāθ, 15*, 478-484.

Tawa, W. (1993). Interpretation of definiteness: with special reference to Japanese. *Word, 44:* 379-396.

角田 太作 (1991).『世界の言語と日本語』くろしお出版.

Винников ИН (1962). Словарь Диалекта Бухарских Арабов *Палестинский Сборник, 10 (73).*

早稲田 みか・徳永 康元 (1992).「ハンガリー語」,『言語学大辞典』第３巻（亀井孝・河野六郎・千野栄一編著）所収、361-371. 三省堂.

Wright, W. (1967). *A grammar of the Arabic language,* 1st paperback edition（第１・２巻合冊。初版は Volume I が1859年、Volume II が1862年）Cambridge University Press, Cambridge.

山本 文明 (1989). 「デンマーク語」,『言語学大辞典』第２巻（亀井孝・河野六郎・千野栄一編著）所収、1179-1187. 三省堂.

山梨 正明 (1992).『推論と照応』くろしお出版

Yule, G. & Mathis, T. (1992). The role of staging and consructed dialogue in establishing speaker's topic. *Linguistics, 30,* 199-215.

吉田 集而 (1980).「指示詞にみられる空間分割の類型とその普遍性」『国立民族学博物館研究報告』*5,* 833-954.

用例の出典

（「参考文献」で挙げた辞書・文法書等は除く）

Abdel-Massih, E. T. (1975). *An introduction to Egyptian Arabic.* Center for Near Eastern and North African Studies (The University of Michigan), Ann Arbor.

ʿAbdu-l-Quddūs, ʾI. (1977). *Fī bayt-i-nā rajul.* Maktabah Miṣr, al-Fajjālah.（初版は1956）

ʿAbdu-ṣ-Ṣamad, K. (1981). *al-Faʾs-u.* Silsilah al-mustaqbal li-l-ʾaṭfāl, 31. Dār al-Fatā al-ʿArabī, Beirut.

anonym (n.d. a). *al-Ḥayāh fi-l-muḥīṭāt.* Ḥaqāʾiq wa-tasālī. Dār al-Maʿārif (アラビア語版), Cairo. (Walt Disney Company)

anonym (n.d. b). *Jism al-ʾinsān.* Ḥaqāʾiq wa-tasālī. Dār al-Maʿārif (アラビア語版), Cairo. (Walt Disney Company)

anonym (1982). *Sindibād wa-jinniyy-u -z-zujājah.* Dār aš-Šurūq, Cairo & Beirut.

anonym (1983). *Fann aṭ-Ṭabx al-Ḥadīθ.* Dār al-ʾAndals, Beirut.

anonym (1993). *Qiṣṣat ḥayāt-i s-sēyid-i l-Masīḥ bi-l-ʿammiyya l-Maṣriyya.*（カセットテープ全１巻）Dār aθ-θaqāfah, Cairo.

Al Akhbar (*al-ʾAxbār*), 1997年6月9日付け第１版。1997年6月11日付け第３版。

Colin, G. S. (1957). *Recueil de textes en Arabe Marocain I: Contes et anecdotes.* Librairie d'Amérique et d'Orient, Paris.

エジプト国営放送 (n.d.). *Hamsah ʿItāb.*（1990年代前半放送分、カイロ・アメリカン大学アラビア語インスティテュート所蔵の教材用録音テープ）

Fenech, V., Serri, L., Camilleri, J. J. & Misfud, P. (1974). *Id-Denfil: Is-Sitt ktieb.* L-Interprint, Marsa.

Al-Gomhuriya (*al-Jumhūriyyah*), 1997年6月7日付け第３版。1997年6月22日付け第３版。1997年6月25日付け、版不明。

al-Ḥakīm, T. (1989 a). ʾUrīdu hāða-r-rajul.（初出は1950年）*ʾUrīdu hāða-r-rajul,* 10-26. Maktabah Miṣr, Cairo.

———. (1989 b). ʿArafa kayfa yamūtu.（初出は1950年）*ʾUrīdu hāða-r-rajul,* 27-50. Maktabah Miṣr, Cairo.

Ḥijāzī (1981). *Tambūl al-ʾawwal.* Dār al-Fatā al-ʿArabī, Beirut.

Ḥusayn, Ṭ. (1986 a). *al-ʾAyyām 1,* 61st ed.（初版は1929）Dār al-Maʿārif, Cairo.

———. (1986 b). *Mā warāʾa-n-nahr,* 4th ed.（初版は1975）Dār al-Maʿārif, Cairo.

———. (1993). *Duʿāʾu-l-Karawān,* 21st ed.（初版は1942）Dār al-Maʿārif, Cairo.

al-Ḥusaynī (1975). *Ḥīlah ðakiyyah.* Silsilah qaws quðaḥ-a 6. Dār al-Fatā al-ʿArabī, Beirut.

ʾIbrāhīm, M. M. (1995).（個人的な録音テープ。1995年2月にカイロのガーデンシティにて収録）

Kiyālī, Ḥ. (1980). *al-Bulbul-u-ṣ-ṣayīr-u-š-šarīd-u.* Silsilah al-mustaqbal li-l-ʾaṭfāl, 28. Dār al-Fatā

al-ʿArabī, Beirut.

al-Labbād (1975). *al-Fīl-u yajīd-u ʿamal-a-n.* Silsilah al-mustaqbal li-l-ʾaṭfāl, 2. Dār al-Fatā al-ʿArabī, Beirut.

Nakano, A. (1979). *Report on Moroccan urban and rural life 1: Ethnographic texts in Moroccan Arabic.* Studia culturae Islamicae No. 14. Institute for the Study of Lnaguages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo.

西内　みなみ(1970).『ぐるんぱのようちえん』こどものとも傑作集. 福音館書店、東京.

Maḥfūẓ, N. (1983). *Bayna-l-Qaṣrayni.* 12th ed.（初版は1956年）Maktabah Miṣr, al-Fajjālah.

al-Markaz al-ʿArabī al-Ḥadīθ (n.d.). *ʾAlf laylah wa-laylah.* vol. 1. al-Markaz al-ʿArabī al-Ḥadīθ, Cairo.

Misfud, Ġ. (1980). *il-Praspar ta' Ġ ałłan* Ħrafa tradizzjonali ġħat-tfal. Gulf Publishing Ltd., Valletta.

———. (1981). *Ciklemfusa: Is-"Cinderella" Maltija.* Ħrafa tradizzjonali ġħat-tfal. Gulf Publishing Ltd., Valletta.

———. (1982). *Torsinelia* 2nd ed.（初版は1980年）Ħrafa tradizzjonali ġħat-tfal. Gulf Publishing Ltd., Valletta.

Mulvaney, S. (n.d.). *L-ikla t-tajba.* Pubblikazzjoni Media Centre, Blata l-Bajda.

内記　良一(1986).『やさしいアラビヤ語読本：イスラムの教えアラブの笑い』大学書林、東京.

Qabbānī, R (1980). *al-Hadiyyah.* Silsilah qaws quðaḥ-a 11. Dār al-Fatā al-ʿArabī, Beirut.

Rašīd, F. (n.d.). *Aθ-θawbu-l-muγāmir.* Al-Muʾassasah al-ʿArabiyyah li-d-Dirāsāt wa-n-Našr, Beirut.

Tāmir, Z. (1975a). *Dars li-l-ʿAṣfūr.* Silsilah qaws quðaḥ-a 3. Dār al-Fatā al-ʿArabī, Beirut.

———. (1975b). *al-Bayt.* Silsilah qaws quðaḥ-a 5. Dār al-Fatā al-ʿArabī, Beirut.

———. (1975c). *al-Ḥamāmat-u-l-bayḍāʾ-u.* Silsilah al-mustaqbal li-l-ʾaṭfāl, 5. Dār al-Fatā al-ʿArabī, Beirut.

al-Tonsi, A., in association with Brustad, K. (1981). *An advanced reader in Egyptian Colloquial Arabic: Part one.* Center for Arabic Studies (the American University in Cairo), Cairo.

at-Tūnī, Ḥ (1980a). *Hiya.* Silsilah qaws quðaḥ-a 15. Dār al-Fatā al-ʿArabī, Beirut.

———. (1980b). *Qiṣṣat-u ḥayāt-i šajarah.* Silsilah qaws quðaḥ-a 16. Dār al-Fatā al-ʿArabī, Beirut.

ʿUmān, 1997年6月9日付け。

Винников, ИН (1969). *Язык и Фольклор Бухарских Арабов* Академия наук СССР, Москва

al-Warraki, N. N. & Hassanein, A. T. (1984). *The connectors in Modern Standard Arabic.* revised edition. Center for Arabic Studies (the American University in Cairo), Cairo.

Żahra, T. (1984). *Darba kien hemm sultan.* Kotba Merill, is-Sliema.

——. (1997 a). *Robi r-robot.* Naqra Storja Żgħira. Merlin Library Ltd., Blata l-Bajda.

——. (1997 b). *Il-Libsa ta' Sina.* Naqra Storja Żgħira. Merlin Library Ltd., Blata l-Bajda.

——. (1997 c). *It-Toqba tal-ġurdien* Naqra Storja Żgħira. Merlin Library Ltd., Blata l-Bajda.